

枕崎市では学校応援団などのボランティアの方々が、コロナに負けずに子供たちと様々な地域学校協働活動を行っています。今月も市内で行われた活動を紹介します。

～妙見神社で東鹿箆太鼓踊りの奉納  
 桜山小の児童も参加～ 桜山校区

桜山校区の妙見神社で10月29日、秋の収穫に感謝する豊祭（ほぜ）が行われ、3年振りに東鹿箆太鼓踊りが奉納されました。東鹿箆太鼓踊りは400年の歴史を持つ伝統ある郷土芸能ですが、コロナ禍で2年、踊りの奉納ができませんでした。今年は保存会結成50周年の節目の年に当たり、10月から毎週2回の練習を行い、準備を積み重ねてきました。

太鼓を叩きながらの踊りと歌の調子が優雅で重厚な太鼓踊りですが、踊り手は「鉦打ち」の叩く伝統のリズムに合わせて太鼓を叩いて踊ります。

また、「入れ鼓」は「鉦打ち」と同じリズムで小さな太鼓を叩く大事な役割があり、今年は桜山小3年の筆原慶（けい）君が大役を務めました。地域の大人達と一緒に伝統芸能継承の一翼を担っています。

妙見神社には太鼓踊りを見ようと多くの人達が詰めかけ、「コロナ禍の中でも実施してくれて良かった」「踊りを見せてくれてありがたかった」などの声が聞かれました。

中央が「入れ鼓」の筆原君 右手前が太鼓踊りの要である「鉦打ち」の踊り手



中央が「入れ鼓」の筆原君 右手前が太鼓踊りの要である「鉦打ち」の踊り手

～「大塚の電照菊について」の授業～  
 立神小学校

立神小学校では4年生の「郷土の開発に関わる話」の授業で、「大塚の電照菊の発展」について楠剛（つよし）さんが講師となって、菊作りの歴史、電照の意味などについて話をしました。

「郷土の開発に関わる話」の授業は、立神地区公民館の青少年講座も兼ねており、地域の子供たちに地元の産業について知ってほしいということで、毎年行われているものです。



「イベントには花を贈ろう」と話す楠さん

大塚の花づくりは「電照菊」で全国的に有名ですが、花を咲かせる時期を遅らせるために照明を当てています。「電照は夜の11時から4時間ぐらい行っており、現在はLEDを主に使い、一部蛍光灯も使っている」との説明がありました。

LEDの色は赤を使うハウスが多いとのこと。「赤い色は虫には見えないので、赤いLEDを付けても虫が寄って来ない」という興味深い話もありました。

菊作りは日々失敗と研究の連続だと話されましたが、楠さんの困難に立ち向かう姿に子供たちも感動を受けていました。

**学校応援団ボランティア 募集中！** 詳しくは生涯学習課まで TEL76-1286

～「枕崎の海博士になろう」  
 台場海岸清掃の巻～ 枕崎小学校

枕崎小学校の5年生は、枕崎の海に親しみ、郷土への愛着を深めるために、総合の授業で「枕崎の海博士になろう」というテーマに取り組んでいます。6月には金七商店の瀬崎祐介さんをお招きして「鯉のさばき方、鯉節削り」などの講話と実演をしていただき、市役所市民生活課の出前講座による「ごみに関する授業」も行いました。

10月28日には、市役所水産商工課と市民生活課の協力で台場公園付近の海岸清掃を行い、ペットボトル、漁具の浮きやロープなど、海岸に漂着した様々なごみを拾い集めました。集めたごみは軽トラック2台分にもなり、子供たちは枕崎の海岸にどのようなごみが漂着しているのかを知り、枕崎の海を美しく未来へ引き継いでいこうという思いを新たにしていました。

5年生の子供たちは、11月には鹿児島水産高校見学に行き、操船シミュレーター体験、養殖しているチョウザメやヒラメの見学など、盛り沢山の体験をして、また一步「枕崎の海博士」に近づいたようです。



漂着したごみを拾い集める子供たち

～グラウンドゴルフで高齢者と交流～  
 別府小学校



狙え！ホールインワン

別府小学校では、11月4日に4年生と校区内の高齢者の方々とグラウンドゴルフを通じたふれあい交流がありました。別府地区公民館の青少年講座も兼ねていて、高齢者の方々も子供たちとふれあうのを毎年の楽しみにしており、この日は14名の老人クラブ・高齢者学級の方々が参加してくれました。

ほとんどの子供がグラウンドゴルフは初めての体験でしたが、チームに分かれて高齢者からボールの打ち方を教わりながら楽しくプレーしていました。

～修学旅行で防災講話～  
 桜山小学校

桜山小学校では、6年生が10月に熊本へ修学旅行に出かけました。10月18日の夜、宿泊したホテルに、桜山小OBで熊本市役所勤務の「木口屋洋平さん」と、同じく桜山小OBで国土交通省勤務の「倉元省吾さん」にお越しいただいて、防災講話をしていただきました。2016年4月に発生した熊本地震の被災者として、子供たちに地震についてもっと詳しく知ってほしい、そのことを基にして、自分の住む町で地震が発生したとき少しでも落ち着いて対応し、復興に向けて協力して過ごしてほしい、そんな思いを子供たちに届けたいということで今回の講話が実現しました。

被災した時の様子を画像も交えて話していただき、子供たちは興味深く聞いていました。「熊本は120%復興した」という言葉はとても印象に残っていたようでした。



宿泊先のホテルでの防災講話の様子

※ 木口屋洋平さんは、自身が熊本地震で体験したことを枕崎の人にも伝えたいという思いから、枕崎市の「学校応援団ボランティア」に登録していただいています。リモートでも対応しますので、「話を聞きたい」という方は生涯学習課にご連絡ください。